

web 会議 コロナ禍のボランティア活動どうしてる？

—公益財団法人キリン福祉財団助成事業—



本会は小児医療施設のボランティア活動を活発にすることで療養環境を向上させたいと立ち上げました。お互いの病院を訪ねたり学習会を開催し、コーディネーターのスキルアップを目指します。会員募集中。



『web会議を開いて』 坂上和子

世の中がコロナ禍でまったく変わってしまいました。そのひとつに病院ボランティア活動もあります。長年積み重ねてきた実績が停滞しています。ボラコの会もお互いの交流や視察が出来なくなり、ジレンマを抱えています。そんな中で9月14日にweb会議を開催しました。お互いの状況や課題を話し合いました。ボランティアコーディネーターがとくに大切にしているのがお休み中のボランティアの安全とモチベーションが下がらないように配慮していることも。ボランティアだよりやハガキ、メールなどを出し、病院の近況を知らせるなどしています。

第5号 2020/11/10
事務局
東京都新宿区若松町 10-1-302
☎080-5527-4379
代表 坂上和子

—コロナ禍でもこんなことをやっています—

神奈川県立子ども医療センターオレンジクラブ

ボランティアニュース

203号 2020年9月号

発行 神奈川県立子ども医療センター オレンジクラブ事務局
編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦典
〒232-8555 横浜市内南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)
ホームページ <https://orangeclub.kcmvolunteer.com>

★神奈川県立子ども医療センター加藤悦典

4月5月は、ボランティア団体「オレンジクラブ」は活動を自粛しました。6月外来や作業・園芸・縫製等の活動が再開し、徐々に患者図書、ホスピタルクラウン、病棟への本の貸し出しが始まりました。11月は恒例のクリスマス飾りで院内は輝きます。

まだ、きょうだい預かりや病棟での活動は出来ませんが、院内での活動が難しいボランティアに保育士が作ったキットを送り、在宅活動でクリスマスカードを作ってもらっています。12月には、入院している全員に届ける予定です。安全と安心を考慮して調整しています。

宮城県立子ども病院 ボランティア通信 令和2年8・9月発行

ボランティアのみなさま
残暑お見舞い申し上げます。長い梅雨が終わってからの雨、猛烈的な暑さが続き、コロナ禍でいつもの夏の風物詩にお目にかかれず、層の上では秋を迎えてしまいました。みなさまはどんな夏をお過ごしでしたでしょうか。こども病院では、8月3日〜7日まで病棟ごとの夏祭りを開催し、いつもより小規模ではありますが、それぞれ盛り上がり楽しい時間を過ごすことができ、最後にはいつもどおりの花火を打ち上げることができました。今年の花火は格段に美しく心にしみました。
こども達というと、大人がみやぎアクトレールに一番乗る中、小中学生は支援学校の夏休みが終わる8月18日から始まります。その安全と笑顔に日本中から応援されています。

★宮城県立子ども病院 佐藤直子

3月から全てのボランティア活動中止となり、6月中旬から緑のボランティアを開始。順次イベントカード、車いす清掃を再開。7月にすべての活動が始まったのですが、新型コロナ陽性者が増え、たったの2週間でまた全面中止となりました。現在はソーイングとスネークギャラリー装飾を郵送等でこなし、院外からのリモート学習指導を行っています。病院スタッフも患者家族も再開を望んでいますが予断を許しません。私はボランティア通信や電話、メールでボランティアさんのモチベーションアップを図っています。

ボランティアだより46号

令和2年 7月30日 発行
発行責任者 沖縄医療センター・子ども医療センターボランティアだより
ボランティアコーディネーター 伊波邦子

令和2年度 7月のボランティアだよりです。今回は6月からのボランティア活動を報告します。

たなはた会で大活躍!

★沖縄南部子ども医療センター 伊波邦子

現在は外来活動のみ。病棟活動は休止中ですが、ボランティア室での手作業は許可がおりたので、人数を制限して粘土細工や折り紙等を行ったり、おもちゃの消毒も回数を増やして行うようにしています。「こども夏祭り」は例年より規模を縮小しての開催になり、祭りへの参加はできませんでしたが、祭り用のうちわや財布作り・こども達へのプレゼントを作って祭りの支援を行うことができました。どんな状況下でも、できる活動があることを実感しています。活動に対する不安の声も聞かれますが、毎週「近況報告」をして連絡を取り合っています

埼玉県立小児医療センター「ボランティア通信 vol.10」

病院ボランティアの会 会員のみなさま

いつも大変お世話になっております。
朝晩の冷たい空気や乾いた風、スーパーのなべスープの品揃えの多さに秋を感じています。いかがお過ごしでしょうか。
ボランティア通信もいつのまにか10号。毎回、お読みいただきありがとうございます。最新のシフト表も添付いたしました。ご確認をお願いいたします。

★埼玉子ども医療センター 富澤真麻

病棟活動は2月から、外来活動も4月には全面休止となりました。それでもソーイングやおりがみ製作は在宅作業をお願いできました。休止中は、スタッフや患者さんから「ボラさんがいないと淋しい」「再開してほしい」との声が多く届き、ボラさんからのお申し出もあり、6月から段階的に再開しました。9月の活動人数は62人。毎月少しずつ増えています。感染管理対策を施して外来でのイベントも開催しています。緊急事態宣言下のカラカラに乾いたセンターを経験したからこそ、今、ボランティア活動がもたらす潤いに癒される毎日です。

大阪母子医療センター 2020年10月5日

ボランティア通信 3号

ボランティアのみなさま
夏の暑さが去り、一気に秋が深まってまいりました。母と子のには、心地よい秋風が漂っています。そろそろ、秋の虫たちの合戦も始まる頃ではないでしょうか。
例年なら、秋のバザーに向け、品物の整理に追われている頃ですが、今年は開催もなく、ボランティアルームはとてもしずりと静まり返っています。

大阪母子医療センターボランティア会の近況をお知らせいたします。

大阪母子医療センター 河盛久美子

4月からほとんどの活動は休止状態です。現在は一部園芸美化活動など患者との接触がない活動は再開していますが、ニーズの高い外来待合活動や、きょうだい預かりの活動再開の許可は出ていません。そんな中ソーイング活動が、在宅支援で患者ニーズに概ね応えられていることは、休止中の他のグループの励みにもなっています。休止中のボランティアに対しては、メール、ラインなどでコミュニケーションを図り、ボランティア・患者双方の感染リスクがなくなるまで、通信の発行で現状をお伝えしようと思います。



NPO 法人病気の子ども支援ネット遊びのボランティア 坂上和子

遊びのボランティアは病棟に入れません。“お母さん食堂”はお弁当が運べません。一方でコロナ禍で病院の経営は悪化し医療現場は疲弊が続いています。こうした中でNPOは何が出来るか考え、無料のサラダを提供することを始めました。4月から6月は国立国際医療研究センターで10回500食を提供。9月から東京女子医大で同様の活動を開始。食材や寄付は会員から寄せられています。「今こそ医療者に恩返しすべきとき」とこの半年、続々と支援が続いています。けれども願わくば、子どもたちと遊べる日も首を長くして待っています。